

新聞を通じて社会を知り、視野を広げて考察する力を育む

樟南高等学校 教諭 光司智徳

1・はじめに

本校は平成26年度より「普通科未来創造コース」という新しいコースを立ち上げた。普通教科に加えて様々な行事、取り組みを取り入れ、生徒の「未来を創造する力」の向上を図っている。コースの目玉の一つとして「新聞活用授業」がある。総合的な学習の時間（1単位）において、1年生は「新聞と生活」、2年生は「新聞と社会」、3年生は「新聞と未来」と題して新聞やその他媒体を活用したオールジャンルの柔軟性ある授業を行っている。

授業担当者は元日本経済新聞の記者（筆者＝専門教科は国語）であり、新聞記者を経験した者が、高校において新聞を専門的に扱って授業を行っているのは全国的にも非常に珍しいケースである。また、コース立ち上げに合わせて南日本新聞社とも協定を結び、新聞利用や新聞に関する講演会など、様々なサポートを得ている。専門的かつ分かりやすい新聞の活用を目指して取り組んでいるところであるが、今年度（平成28年度）、未来創造コースが3学年揃ったことになり、全学年で新聞授業が実施されることとなった。

導入の目的は「新聞を通じて最新の社会の動きを知る」ことであり、社会の様々な動きを知る中で、「なぜ事が起こったのか」「なぜそのような仕組みになっているのか」「どう解決していくのか」「自分たちの生活とどのようなつながりがあるのか」など考察する力を育み、自分の考えを持てるようにすることである。また、物事を知るなかで人間的な視野を広げ、多様な人間性や価値観を共有できる大人になってもらいたいという狙いもある。生まれ育った地域、鹿児島、日本という狭い範囲の価値観にとらわれず、世界に目を向けて考察できる人間として成長してもらいたいと思っている。

近年、若者の新聞離れが言われているところであるが、この授業の導入により、家庭等で新聞を読むようになった生徒が確実に増えており、元新聞記者の筆者にとっては望外の喜びである。今後も新聞の必要性、素晴らしさを生徒に伝えていきたいと思っている。

2・毎日、毎週の取り組み

毎朝（テスト当日以外の平日はすべて）、当日の新聞各紙の一面コラムおよび当日の大きなニュースや生徒に知っておいてもらいたいニュースを印刷し、両面刷りで生徒に朝の会において配布している。南日本新聞社に掲載される「若い目」も必ず1人は載せており、同年代の生徒がどのような考えを持っているのかについて読ませている。

その日の新聞記事が、その日の朝に手渡されているので、テレビやネットでのニュースと連動性があり、生徒が親しみやすい。気になるニュースについても続報を追いやすい。



また、毎週刊行されている朝日や読売の中高生新聞から、1週間のニュースまとめや職業紹介欄などを印刷し、生徒に配布している。

後述するが、こうした配布物をもとに、毎週の授業においてニュースに関する小テストを実施しており、「世の中の動きを把握する」という目的に近づけている。



3・授業での取り組み

毎週1時間の授業においては、その時々ニュースなどにより様々な取り組みを行っている。大きなニュースが発生した場合は予定していた内容を延期し、その日の朝刊を利用してニュースについて理解したり、考えさせ、意見を求めるなどしている。新聞を扱っているため、重大性に即して、臨機応変に授業を組み立てている。1年生の最初は導入となるため、新聞の仕組みや各面の説明、記事がどのように成り立っているかなどの基本的情報について学ぶ。2・3年生は基礎から内容理解にシフトし、記事について考察する機会を増やしている。

毎回の授業で必ず行うものが前週のニュースについて、どれだけ理解しているかをチェックする小テストである。(テストと言っても点数での評価は一切しない。できない場合は「知っておかないといけないな」と思わせるように話をしている)

評価はしないと言っても、生徒に自己採点させて点数を報告させ、競争意識は持たせるようにしている。毎回5、6問で実施しているが、平均では3点以上は取れるように作成している。

生の新聞記事だけでなく、切り抜き縮刷版なども利用し、テーマごとの考察を行う時間もある。

Fコース 新聞授業 ニュースチェック⑩

()組 氏名() 点

1・国内女子ゴルフのメジャー大会、日本女子オープンでアマ初のメジャー制覇をした高校3年生は誰？
A・畑岡奈紗 B・勝みなみ C・堀替音

2・東京工業大学産教授である大隈良典教授が受賞したのはノーベル何賞？
A・物理学 B・医学生理学 C・平和

3・興行収入が130億円を超え、爆発的ヒットとなっている日本のアニメ映画のタイトルは？
『 』

4・鹿児島県で捕獲数が急増している動物は？
A・イノシシ B・シカ C・アナグマ

5・東京大学の研究グループの調査で、中高生のうつや不安のリスクがひくくなるとされた睡眠時間は？
A・6・5時間 B・7・5時間 C・8・5時間

6・ノーベル文学賞として異例となった歌手の受賞者は誰？

Fコース 新聞授業 ニュースチェック⑪

()組 氏名() 点

1・東京・明治神宮外苑イベントの展示物で、謎の巨大な幼虫が火災によりなくなったが展示物は何製であったか？
A・木製 B・鉄製 C・特殊金属製

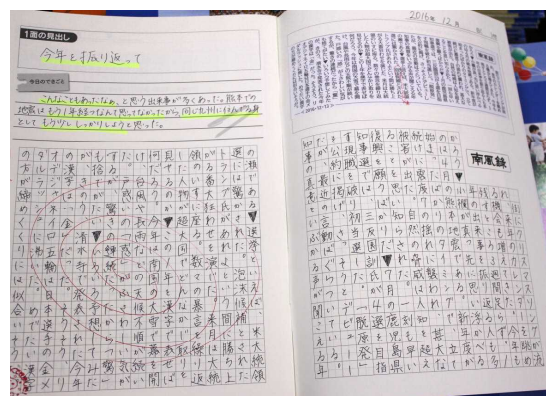
2・新入社員の高齢自殺を巡り「電通」に強制調査を実施した国の中央官庁は？
A・文部科学省 B・環境省 C・厚生労働省

3・地下鉄の工事が原因となり、早朝に大きな道路が陥没したのは？
【 】県【 】市

4・「歴史的番狂わせ」とも言われた米大統領選挙で当選したのは？
【 】

5・公立小中学校の洋式トイレ設置率。全国平均は43.3%であったが、鹿児島県は？
A・30% B・40% C・50%

南日本新聞社の1面コラム「南風録」書き写しも高い頻度で行っている。同社が発行しているスクラップ帳を各自購入し、授業や宿題で書き写しているが、必ず文章に見出しをつけさせている。南風録には見出しがないため、なるべく生徒が見出しを立てやすい日のコラムを選んでいる。見出しをつける作業は、文章の主題、テーマを見つける作業であり、その文章が理解できているかのポイントにもなる大切な取り組みである。併せて感想も書かせ、自分の意見はどうであるのかを確認している。生徒は概ね30分程度で書き写し、見出し、感想を終えられている。またコラムの文章力の高さに感激する生徒も多く、自身の文章力向上へのフィードバックにもつながっている面がある。



4・定期的な取り組み

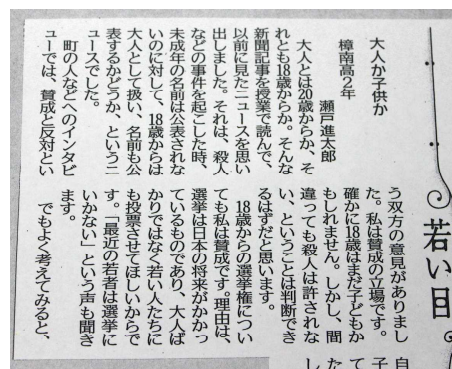
授業以外においても、定期的に取り組んでいることがある。南日本新聞社の協力をいただき、新聞記者による講演や新聞社見学を毎年実施している。本年度は1年生を対象として新聞についての基礎的な内容を、2年生を対象として、より専門的な理解が深まるような内容を、記者に来ていただいて講演してもらった。生徒の感想によれば、新聞を読む大切さや、これから新聞を読んでいきたいという動機付けにつながっている。また、毎年1年生が新聞社見学を行っている。



南日本新聞の投稿欄「若い目」への積極的な投稿も行っている。授業で行ったり、宿題で書かせたりしているが、自分の文章が新聞に掲載されるという喜びは大変に大きなもので、自信にもつながる。また、掲載後、様々な反応を得られることで影響力の大きさを知ることにもつながっている。



投稿文章の作成においては、自分の意見を明確にすること、またその意見の根拠をはっきりと書くことなどを指導している。こうした取り組みは大学入試などにおける小論文対策や面接対策にも結果的につながっており、新聞活用の大きな成果として実感しているものである。



5・最後に

今後も生徒のためになる新聞授業づくりに全力で取り組みたい。